



## 2026年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年5月13日 東

上場会社名 アース製薬株式会社 上場取引所  
 コード番号 4985 URL <https://corp.earth.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 CEO (兼) (氏名) 川端 克宜  
 グループ各社取締役会長  
 問合せ先責任者 (役職名) 上席執行役員 (氏名) 郷司 功 (TEL) 03-5207-7458  
 経営統括本部本部長  
 配当支払開始予定日 —  
 決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト、機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

## 1. 2026年12月期第1四半期の連結業績(2026年1月1日~2026年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年12月期第1四半期	47,914	7.0	6,338	1.1	6,304	2.4	4,457	△4.7
2025年12月期第1四半期	44,782	6.5	6,269	25.9	6,159	19.6	4,678	32.5

(注) 包括利益 2026年12月期第1四半期 4,287百万円(11.3%) 2025年12月期第1四半期 3,850百万円(△12.4%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年12月期第1四半期	204.02	—
2025年12月期第1四半期	214.82	—

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年12月期第1四半期	162,384	82,608	47.1
2025年12月期	149,382	81,290	50.2

(参考) 自己資本 2026年12月期第1四半期 76,432百万円 2025年12月期 74,919百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年12月期	—	0.00	—	125.00	125.00
2026年12月期	—	—	—	—	—
2026年12月期(予想)	—	0.00	—	130.00	130.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2026年12月期の連結業績予想(2026年1月1日~2026年12月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	109,000	6.2	12,250	△9.6	12,510	△8.4	8,700	△7.2	398.21
通期	188,000	4.9	9,000	11.3	9,550	7.4	6,200	18.4	283.79

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 有  
新規 — 社(社名) — 、除外 1 社(社名) 株式会社バスクリン

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2026年12月期1Q	22,209,900株	2025年12月期	22,209,900株
2026年12月期1Q	362,405株	2025年12月期	362,395株
2026年12月期1Q	21,847,498株	2025年12月期1Q	21,777,558株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断した一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料P.4「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(四半期決算補足説明資料の入手方法)

当社は2026年5月13日(水)にアナリスト・機関投資家向け決算説明会を開催する予定です。この説明会にて使用する決算補足説明資料につきましては、開催当日に当社ホームページに掲載する予定です。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	7
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	9
第1四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等の注記)	10
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	11
(企業結合等関係)	11
(重要な後発事象)	12

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における我が国の経済は、雇用・所得環境の改善を背景に緩やかな回復傾向が継続しておりますが、米国の通商政策や為替相場の動向、地政学リスクの高止まりなどから、資源価格やエネルギーコストの高止まりに加え、原材料の価格高騰により個人消費への下押し圧力が強まるなど、先行きについては依然注視が必要な状況にあります。

こうした状況の中、当社グループは「グループの総力、アースの明日へ」をスローガンに掲げ、2026年度までの中期経営計画「Act For SMILE COMPASS 2026」に沿って経営を進めています。本計画では、十分な利益・キャッシュの創出（収益力の向上）を最優先課題として国内の構造改革及び日用品のブランド力向上により収益力の強化を図るとともに、アジア市場を中心とした海外事業を成長ドライバーと捉え、海外売上高の拡大を目指してまいります。

当第1四半期連結累計期間における当社グループの業績について、家庭用品事業では、虫ケア用品の好調な出荷などが寄与し、また総合環境衛生事業では衛生管理サービスへのニーズの高まりを背景とした契約件数や契約金額が引き続き伸長した結果、売上高は479億14百万円（前年同期比7.0%増）となりました。利益については増収に伴う売上総利益の増加などが寄与し、営業利益63億38百万円（前年同期比1.1%増）、経常利益63億4百万円（前年同期比2.4%増）となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益については、44億57百万円（前年同期比4.7%減）となりました。

セグメントの業績の概要は次のとおりであります。

## 〔家庭用品事業〕

家庭用品事業においては、中期経営計画に基づいた収益構造改革を行うべく、収益性と将来性を軸にしたブランド・SKUの選択と集中など、ブランド強化と市場拡大を目指した取り組みを進めています。また、海外においては、ASEAN・中国での積極展開と輸出事業の拡大等に取り組んでいます。

当第1四半期連結累計期間における当事業の業績については、厳しい競争環境下において入浴剤や口腔衛生用品が前年を下回ったものの、良好な市場環境を背景に虫ケア用品の出荷が好調に推移したことなどにより、売上高は429億62百万円（前年同期比5.6%増）となりました。利益面では、増収に伴う売上総利益の増加などが寄与し、セグメント利益（営業利益）は62億76百万円（前年同期比3.2%増）となりました。

## (家庭用品事業の業績)

(単位：百万円)

	前第1四半期 連結累計期間	当第1四半期 連結累計期間	増減額	増減率
虫ケア用品部門	20,510	22,388	1,878	9.2%
日用品部門	15,817	15,220	△597	△3.8%
口腔衛生用品	1,888	1,809	△78	△4.1%
入浴剤	6,127	5,512	△615	△10.0%
その他日用品	7,801	7,898	96	1.2%
園芸用品部門	1,256	2,466	1,210	96.4%
ペット用品・その他部門	3,081	2,886	△195	△6.3%
売上高合計	40,665	42,962	2,297	5.6%
セグメント利益(営業利益)	6,081	6,276	194	3.2%

(注) 1. 売上高にはセグメント間及びセグメント内の内部売上高又は振替高が含まれており、金額は前第1四半期連結累計期間では3,574百万円、当第1四半期連結累計期間では3,427百万円です。

(注) 2. 販売区分の表示方法について、前中間連結会計期間より「虫ケア用品部門」に含めておりました「園芸用品部門」の売上を区分して表記しております。なお、「虫ケア用品部門」の前第1四半期連結累計期間の売上高は「園芸用品部門」を区分した数値に遡及して表示しています。

部門別の主な状況は次のとおりであります。

#### 虫ケア用品部門

国内においては、気温は昨年比べて高く推移し、市場は好調な立ち上がりとなりました。不快害虫用製品や虫よけ剤が昨年から続いて好調に推移したことに加え、今春の新商品である『アース OH! ノーマット』などのハエ蚊用製品が伸長しました。

海外においては、タイや中国などで前年を上回って推移し、全体では前年を上回る推移となりました。

以上の結果、当部門の売上高は223億88百万円（前年同期比9.2%増）となりました。

#### 日用品部門

口腔衛生用品分野においては、市場規模は年初から前年を上回っており、店頭消化は堅調に推移したものの、出荷が前年を下回り、売上高は18億9百万円（前年同期比4.1%減）となりました。

入浴剤分野においては、基幹商品である『温泡』や中性重炭酸入浴剤『BARTH』などは好調に推移したものの、『バスロマン』や『バスクリン』などの粉末タイプが前年を大きく下回り、売上高は55億12百万円（前年同期比10.0%減）となりました。

その他日用品分野においては、消臭芳香剤などの出荷が前年を上回り、売上高は78億98百万円（前年同期比1.2%増）となりました。

以上の結果、当部門の売上高は152億20百万円（前年同期比3.8%減）となりました。

#### 園芸用品部門

園芸用品部門においては、前連結会計年度より新規連結した株式会社プロトリーフの売上高が寄与したことに加え、園芸用虫ケア用品や除草剤を中心に売上高が好調に推移しました。

以上の結果、当部門の売上高は24億66百万円（前年同期比96.4%増）となりました。

#### ペット用品・その他部門

ペット用品分野においては、飼い主のペットに対する健康意識の高まりやペットの住環境の充実等を受け、一頭あたりにかける費用は増加傾向にあり、ペット関連市場は安定して推移しています。こうした状況の中、猫砂等のケア用品など売上は好調を維持しました。一方で、MA-T事業は計画どおりの進捗となっていますが、第1四半期連結累計期間では前年を下回る結果となりました。

以上の結果、当部門の売上高は28億86百万円（前年同期比6.3%減）となりました。

## 〔総合環境衛生事業〕

総合環境衛生事業においては、製造業における設備投資の回復に加え、国内で続く異物混入問題を背景として衛生管理の充実が強く求められる中、食品関連工場や医薬品関連工場などで当社グループの専門知識や技術をもって提供する高品質な衛生管理の支援サービスへのニーズは依然として高い状況です。

このような状況の中、「人、専門性、技術力、教育、労働安全、事業基盤、事業創出」の7つの重点テーマに取り組み、衛生管理に関する最先端の知見とハイレベルな技術力でお客様の高い品質環境を実現し、長期的な企業価値の向上を目指すとともに、かけがえのない地球環境を維持・保全し、社会の健全な発展に持続的に貢献するという使命の達成に努めます。

具体的には、彩都総合研究所を中核拠点とした人材育成と研究・技術開発を継続し、IoT・AIなどのデジタル技術を活用した次世代サービスや食品安全に関する監査業務、ライフサイエンス業界に向けた衛生管理の支援業務を強化します。これらの効率的で付加価値の高いサービスの提供を通じ、年間契約を着実に積み上げ、安定的かつ持続的な収益拡大を目指します。

当第1四半期連結累計期間における当事業の業績については、原価率の上昇や人財への積極投資に伴う人件費の増加などがあったものの、年間契約件数の増加により売上高が伸長した結果、売上高は84億15百万円（前年同期比8.9%増）、セグメント利益(営業利益)は2億81百万円（前年同期比32.6%増）となりました。

(単位：百万円)

	前第1四半期 連結累計期間	当第1四半期 連結累計期間	増減額	増減率
売上高	7,729	8,415	686	8.9%
セグメント利益(営業利益)	212	281	69	32.6%

(注) 売上高にはセグメント間及びセグメント内の内部売上高又は振替高が含まれており、金額は前第1四半期連結累計期間では37百万円、当第1四半期連結累計期間では35百万円です。

## (2) 財政状態に関する説明

## ① 資産、負債及び純資産の状況

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べて130億1百万円増加し、1,623億84百万円となりました。これは主に、現金及び預金が減少したものの、売上債権、棚卸資産が増加したことによるものです。

当第1四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末に比べて116億84百万円増加し、797億76百万円となりました。これは主に、未払金、その他の流動負債が減少したものの、短期借入金、未払法人税等、賞与引当金が増加したことによるものです。

当第1四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べて13億17百万円増加し、826億8百万円となりました。これは主に、利益剰余金が配当金の支払いにより減少した一方、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により増加したことによるものです。

以上の結果、自己資本比率は前連結会計年度末に比べて3.1ポイント低下し、47.1%となりました。

## ② キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しておりませんので、記載を省略しております。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年2月13日に公表した通期の業績予想に変更はありません。

なお、本業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、様々な要因の変化により実際の業績とは大きく異なる場合があります。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	23,327	17,389
受取手形及び売掛金	23,197	36,255
電子記録債権	2,744	3,371
商品及び製品	25,861	30,933
仕掛品	917	792
原材料及び貯蔵品	5,525	6,061
その他	2,913	2,963
貸倒引当金	△148	△161
流動資産合計	84,339	97,605
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	33,120	33,235
減価償却累計額及び減損損失累計額	△19,055	△19,366
建物及び構築物（純額）	14,064	13,869
機械装置及び運搬具	20,791	20,948
減価償却累計額及び減損損失累計額	△15,197	△15,521
機械装置及び運搬具（純額）	5,594	5,426
土地	6,602	6,588
リース資産	537	566
減価償却累計額及び減損損失累計額	△342	△361
リース資産（純額）	194	204
建設仮勘定	622	742
その他	10,702	10,815
減価償却累計額及び減損損失累計額	△8,407	△8,529
その他（純額）	2,295	2,286
有形固定資産合計	29,375	29,116
無形固定資産		
商標権	1,436	1,357
ソフトウェア	3,512	3,938
のれん	1,186	1,138
顧客関連資産	591	555
その他	816	528
無形固定資産合計	7,543	7,518
投資その他の資産		
投資有価証券	6,630	6,457
退職給付に係る資産	17,992	18,153
繰延税金資産	438	516
その他	3,123	3,075
貸倒引当金	△60	△57
投資その他の資産合計	28,124	28,144
固定資産合計	65,043	64,779
資産合計	149,382	162,384

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	23,972	26,344
電子記録債務	11,361	8,574
短期借入金	7,420	21,420
1年内返済予定の長期借入金	134	124
未払金	7,627	4,888
未払法人税等	850	2,092
未払消費税等	822	727
賞与引当金	460	1,913
返金負債	1,052	864
その他	9,252	7,870
流動負債合計	62,954	74,820
固定負債		
長期借入金	165	132
繰延税金負債	3,851	3,690
退職給付に係る負債	209	204
資産除去債務	516	520
その他	394	407
固定負債合計	5,137	4,955
負債合計	68,092	79,776
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,192	10,192
資本剰余金	10,262	10,268
利益剰余金	44,862	46,588
自己株式	△1,743	△1,743
株主資本合計	63,573	65,305
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,217	2,085
為替換算調整勘定	2,850	2,949
退職給付に係る調整累計額	6,277	6,091
その他の包括利益累計額合計	11,345	11,126
非支配株主持分	6,371	6,176
純資産合計	81,290	82,608
負債純資産合計	149,382	162,384

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年3月31日)
売上高	44,782	47,914
売上原価	24,955	26,854
売上総利益	19,826	21,060
販売費及び一般管理費		
運送費及び保管費	1,824	2,186
広告宣伝費	896	1,376
販売促進費	244	408
貸倒引当金繰入額	10	15
給料及び手当	3,784	4,006
賞与引当金繰入額	1,229	1,127
旅費及び交通費	347	327
減価償却費	482	497
のれん償却額	31	48
地代家賃	403	472
研究開発費	763	771
その他	3,538	3,485
販売費及び一般管理費合計	13,556	14,722
営業利益	6,269	6,338
営業外収益		
受取利息	51	52
受取配当金	3	12
為替差益	—	15
受取手数料	6	5
受取家賃	18	19
その他	58	63
営業外収益合計	138	168
営業外費用		
支払利息	26	42
不動産賃貸費用	7	7
為替差損	170	—
貸倒引当金繰入額	40	—
支払補償費	—	137
その他	3	15
営業外費用合計	248	202
経常利益	6,159	6,304

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年3月31日)
特別利益		
固定資産売却益	0	—
投資有価証券売却益	—	0
段階取得に係る差益	349	—
特別利益合計	349	0
特別損失		
固定資産売却損	0	—
固定資産除却損	4	3
投資有価証券評価損	0	—
特別損失合計	4	3
税金等調整前四半期純利益	6,505	6,301
法人税、住民税及び事業税	1,267	1,879
法人税等調整額	502	△90
法人税等合計	1,770	1,789
四半期純利益	4,735	4,512
非支配株主に帰属する四半期純利益	57	54
親会社株主に帰属する四半期純利益	4,678	4,457

## 四半期連結包括利益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年3月31日)
四半期純利益	4,735	4,512
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△19	△119
為替換算調整勘定	△694	99
退職給付に係る調整額	△170	△204
その他の包括利益合計	△884	△224
四半期包括利益	3,850	4,287
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,813	4,253
非支配株主に係る四半期包括利益	37	33

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等の注記)

## 【セグメント情報】

## I 前第1四半期連結累計期間(自 2025年1月1日 至 2025年3月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	家庭用品事業	総合環境 衛生事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	37,090	7,691	44,782	—	44,782
セグメント間の内部 売上高又は振替高 (注) 1	3,574	37	3,612	△3,612	—
計	40,665	7,729	48,394	△3,612	44,782
セグメント利益	6,081	212	6,293	△24	6,269

(注) 1. 報告セグメント内の内部取引を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△24百万円は、セグメント間取引消去であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## II 当第1四半期連結累計期間(自 2026年1月1日 至 2026年3月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	家庭用品事業	総合環境 衛生事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	39,534	8,380	47,914	—	47,914
セグメント間の内部 売上高又は振替高 (注) 1	3,427	35	3,463	△3,463	—
計	42,962	8,415	51,378	△3,463	47,914
セグメント利益	6,276	281	6,557	△218	6,338

(注) 1. 報告セグメント内の内部取引を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△218百万円は、セグメント間取引消去であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年3月31日)
減価償却費	1,088百万円	1,182百万円
のれんの償却額	31百万円	48百万円

(企業結合等関係)

(連結子会社の吸収合併)

当社は、2025年3月11日開催の取締役会において、当社の完全子会社である株式会社バスクリンを吸収合併することを決議し、2026年1月1日を効力発生日として、吸収合併を行いました。

## 1. 企業結合の概要

(1) 結合当事企業の名称及びその事業の内容

(存続会社)

企業の名称 アース製薬株式会社  
事業の内容 医薬品、医薬部外品、医療用具、家庭用品などの製造・販売並びに輸出入

(消滅会社)

企業の名称 株式会社バスクリン  
事業の内容 医薬部外品（入浴剤・育毛剤他）、化粧品、雑貨品等の製造販売

(2) 企業結合日

2026年1月1日

(3) 企業結合の法的形式

当社を存続会社とし、株式会社バスクリンを消滅会社とする吸収合併

(4) 結合後企業の名称

アース製薬株式会社

(5) 企業結合の目的

グループ経営力の強化の観点から、グループ経営資源の最適分配の実現に向けた事業の効率化を目指すとともに、昨今の外部環境の著しい変化に対応し、当社グループとしての市場プレゼンスの更なる向上を図るためであります。

## 2. 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 2019年1月16日）及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第10号 2019年1月16日）に基づき、共通支配下の取引として会計処理を実施しています。

(重要な後発事象)

当社は2026年5月13日開催の取締役会において、当社の中国連結子会社である安速日用化学（蘇州）有限公司を解散し、閉鎖することを決定いたしました。詳細につきましては、2026年5月13日公表の「安速日用化学（蘇州）有限公司の解散に関するお知らせ」をご参照ください。